

長野県高等学校改革プラン推進委員会
(第3推進委員会)
報 告 書

平成 18 年 2 月 3 日

長野県高等学校改革プラン推進委員会
(第3推進委員会)

目 次

	頁
1 . はじめに -----	1
2 . 「魅力ある高校づくり」について -----	1
3 . 委員会結論 -----	1
(1) 全日制の再編整備に関する事項 -----	1
(2) 総合学科高校に関する事項 -----	1
(3) 多部制・単位制高校に関する事項 -----	1
(4) 定時制高校に関する事項 -----	2
(付記) -----	2
4 . 魅力ある高校づくりについての意見集約 -----	2
(1) 普通科 -----	3
(2) 専門学科 -----	3
(3) 学区ごとに -----	3
【第7区】 -----	3
【第8区】 -----	4
【第9区】 -----	5
5 . 結論の説明 -----	5
(1) 全日制の再編整備に関する事項 -----	5
(2) 総合学科高校に関する事項 -----	6
(3) 多部制・単位制高校に関する事項 -----	6
(4) 定時制高校に関する事項 -----	7
6 . その他の意見 -----	7
7 . おわりに -----	8
第3通学区推進委員会委員名簿 -----	9
第3通学区推進委員会審議経過 -----	10

1. はじめに

長野県教育委員会より、高校改革を推進するために設置された高等学校改革プラン第3通学区推進委員会の委員を委嘱され、「魅力ある高校づくり」に関する事項、県立高校の再編整備に関する事項、「総合学科高校」及び「多部制・単位制高校」の配置に関する事項等について検討を重ねてまいりました。16回の委員会を開催すると共に、過半の高校の現状を確認し、また先行事例に学ぶために県内外の学校視察を行いました。この度、一定の結論を見るに至りましたので、その経過を含め、下記の通りご報告申し上げます。

2. 「魅力ある高校づくり」について

「魅力ある高校づくり」については、各回の論議の中で検討を重ねたが、推進委員から次のような視点で出された意見を集約し、高校改革に活かすよう提言する。キャリア教育、選択科目の拡充などの視点から教育課程を見直し、特色づくりを推進

生徒の学習意欲の向上と学力の向上のための学習指導体制や授業の改善
地域との連携を行う開かれた学校づくりの推進
積極的な生徒会活動、クラブ活動等の課外活動の指導
人間関係づくりや規範意識の高揚のための教育相談体制や生徒指導の改善
学校の特質にあった適材適所の人的配置の検討
普通科のコース制と専門学科の各学科の点検、ニーズに合わせた学科改編
総合学科高校や多部制・単位制高校の設置及び教育効果が上がる統合

3. 委員会結論

(1) 全日制的再編整備に関する事項

- ・ 第3通学区全日制高校25校を22校に再編整備する。
- ・ 岡谷東高校と岡谷南高校を統合する。
- ・ 箕輪工業高校の全日制的募集を停止する。
- ・ 飯田長姫高校と飯田工業高校を統合する。

(2) 総合学科高校に関する事項

- ・ 第3通学区内に総合学科高校を1校設置する。
- ・ 具体的校名の結論を得るに至らなかった。

(3) 多部制・単位制高校に関する事項

- ・ 第3通学区内に多部制・単位制高校を1校設置する。
- ・ 校地・校舎は、箕輪工業高校を活用する。

(4) 定時制高校に関する事項

- ・ 箕輪工業高校定時制及び上伊那農業高校定時制を新たに設置される多部制・単位制に統合する。
- ・ 飯田長姫高校定時制と飯田工業高校定時制を統合する。

(付記)

- ・ 第3通学区の再編整備については、魅力づくりに向けて地域社会の理解が得られるよう、その実施にあたり慎重な推進を願いたい。
- ・ 特に、岡谷東高校と岡谷南高校の統合については、地域の合意形成が他区に比べて不足しているため、魅力づくり、日程、方法等の面で、慎重な対応を願いたい。
- ・ 多部制・単位制高校の設置については、各定時制高校の実情も考慮しながら、各方面からの提言を尊重し、課題を克服するよう配慮されたい。

4. 魅力ある高校づくりについての意見集約

改革の主要テーマは、いかに魅力ある高校づくりが提供できるかにあるが、これは極めて幅広く、奥行きのある問題である。そのため結論とするに至らず、意見集約という形で示したい。

魅力ある高校づくりの基本的視点としては、学校運営や教育課程等が生徒の意欲やニーズにかなっているか、学力向上や豊かな人間性育成に繋がっているか、そしてその中で育った生徒の力が社会や地域で生かされているかである。

また、普通科、専門学科、定時制、地域高校がその特色を活かしきれているか点検を行い、必要に応じた学科やコース制の改編が急務である。特に、普通科は、なかなか特色を生かされていないところもあるので、思い切った改革を望むところである。さらに、専門学科については、激変する企業や社会の動きを的確に察知した上での改革が望まれる。

教員の資質向上とその適切な配置については十分な検討ができなかったが、ある意味では魅力ある高校づくりの鍵を握るといってもいい課題である。少子化、財政難の中では人員削減は避けて通れないことである一方、適切な人材配置・教員の資質向上なしには魅力ある高校づくりは実現できない。再編整備や教育課程の精選を通して人材確保をする一方、授業研究の推進、研修の充実などの面で思い切った改革が望まれる。

各高校は、地域の生徒が通う重要な高校として、地域住民との交流・連携を深めながら、今回再編整備の対象にならない高校においても、「魅力ある高校づくり」のために、不断の努力が必要である。

各推進委員から提言された「魅力ある高校づくり」の意見を普通科、専門学科、学区ごとに分けて、以下に集約する。

(1) 普通科

生徒の進路希望において、その多様性は拡大している。また、生徒の中には、目的意識を見失った生徒も見受けられる。そして、学力の幅も一層の広がりを見せている。普通科の各高校には、大学入試センター試験で一定の成果をあげ、中堅以上の大学への合格者の増加が期待されているが、必ずしも保護者の期待に応えた成果をあげているとは言えない。

生徒の進路希望の多様化に対応できるように、コース制等の選択教科の拡大、専門高校に劣らないキャリア教育が必要であり、職業体験などの方策により職業観を育成し自己実現の目標を持たせると共に、学習意欲を喚起することが望まれる。また、大学全入と言われる時代を迎えて、大学、研究機関等との連携を含めた魅力づくりと、教育課程のさらなる検討が期待される。

(2) 専門学科（農業科、工業科、商業科、等）

専門学科は、地域産業の担い手として、その時代時代の要請に応じてきた。第3通学区は、県下でも有数の工業、農業地域を抱えており、依然として専門高校生に期待するところは大きい。今後も地域の産業を支え、人口維持を図るためにも、専門学科による職業教育は必要である。しかし、急激な社会状況の変化に対応できていない側面もある。

今後さらに地域、産業界、大学や研究機関との連携を深め、地域の期待に応え、地域に還元される教育実践が求められる。資格取得の推進やインターンシップのさらなる充実により勤労観、職業観を育成するとともに、地域の人材を活用しながら、地域と共に育てる授業実践を通して、地域と専門高校の共生関係の構築が求められる。科目選択幅の拡大、小学科間の連携、コース制の見直し更には学科改編について学校における自発的な検証と検討が必要である。生徒や時代のニーズに適合させるため、不断に教育内容の見直しを図り、学科再編も厭わぬ姿勢が大切である。

(3) 学区ごとに

【第7区】

第7区は、伝統的に教育に熱心な地域であり、普通科、工業科、商業科、農業科、家庭科とも充実しているが、中学卒業生が県外や第4通学区の進学校へ流出している。他県や他の通学区を選択する子どもや親を引きつけられるような第7区の高校の魅力づくりが急務である。

専門学科を設置する高校は、それぞれの専門学科の教育内容を、時代を反映したものとするために、さらに充実を図る。諏訪実業高校は、商取引の電子化が進む中で、商業科目の充実も考えられる。岡谷工業高校は、工業高校

の拠点校として、更なる充実が望まれる。

岡谷東高校と岡谷南高校を統合し新たな高校をつくる。新たな学校は、両校の現在の特性を活かしつつ、意欲的な履修計画が立てられるよう単位制高校や地域のニーズに応えるコースの設定など進学に軸足を置いた学校づくりが考えられる。英語科の他、理数科の設置も検討に値する。

普通科の高校は、各校とも地域の期待に応えるよう学力向上をいっそう推進する。中でも、茅野高校の魅力づくりは今後の課題であり、高大連携を一層強化し、福祉科の設置や総合学科への転換も視野に入れるべきであろう。

地域高校として富士見高校は、今後学級数の減少など厳しい試練が考えられるので、高冷地農業や八ヶ岳の観光にシフトした学科再編も考慮すべきであろう。

諏訪実業高校定時制は、この地区における唯一の定時制として、充実を図るべく、単位制の導入などの検討が必要である。

【第8区】

第8区は第7、9区が一極集中型の都市が存在しているのに対し、小規模な都市が飯田線沿いに展開しているため、生徒も分散して通学する形態となっている。

専門学科を設置する高校は、それぞれの専門学科の教育内容を、時代を反映したものとするために、地域との連携を深めつつ、さらに充実を図る。上伊那農業高校は、上伊那地域の農業の拠点校として、既成概念の農林業にこだわらずバイオテクノロジーなど先端的集約的な分野の教育を一層充実させていくことが考えられる。駒ヶ根工業高校は、上伊那地域の工業技術の拠点校として学科の見直し等を含め、一層の充実を図る。赤穂高校との連携推進なども考えられる。

新たに設置する多部制・単位制高校は、その特性を活かして、多様な青少年の育成を目指す。午前・午後・夜間の各部とも普通科設置を原則とする。校内施設の活用を図り、体験的実地的学習を取り入れて、キャリア教育の充実を図る。また生涯学習の観点からも工夫が求められる。

箕輪工業高校定時制及び上伊那農業高校定時制は、アットホーム的な雰囲気を残しながら、多部制・単位制高校に統合する。

上伊那北部の拠点校として、辰野高校の普通科については今後進学コースを充実させていく必要がある。また、商業科のあり方については、特色を出す必要があるものと考えられる。

地域高校としての高遠高校は、街づくりに関与するなど個性的な特色を出

す。今後、学級減が進むと推定されるが、小規模地域校として特色を鮮明に出す必要がある。また、生徒の通学手段の確保の検討も必要である。

普通科の各高校は、それぞれ学力向上に一層取り組み、それぞれの学校の特色化を図る必要がある。

赤穂高校定時制は、就業しながら学業に励む勤労学生の学びの場としてもその役割を充実させる。また、第3通学区に設置される多部制・単位制高校との連携による教育活動を検討する。

【第9区】

第9区では、南に山間地域を控え、地域高校2校以外は、都市部飯田市内に高校が集中している。中学校卒業生の大多数は区内の高校に進学し、区外への流出は少ない。

飯田長姫高校と飯田工業高校を統合し、両校が保有する学科を維持するとともにそれぞれの専門学科の教育内容のさらなる充実を図り、時代を反映したものづくりの拠点校として充実を図るものとする。また、両校の定時制を統合し、定時制教育の充実を図る。

地域高校としての阿智高校及び阿南高校は、再編整備の対象とならなかったが、たとえば、高齢者介護などの特色づくりを地域と連携して打ち出し、生徒数確保に一層努めることが肝要である。

下伊那農業高校は、社会や地域のニーズにあった、広い産業分野の視野に立ち、先端的教育展開に向け学科再編等を進め、下伊那地域の農業の拠点校として一層の充実を図る。

松川高校は、地域校的な色彩も強いが、いっそうの向学心の育成が望まれる。また、これまでの取り組みの上に立ち、地域との連携を密にして、一層特色を示すことが望まれる。

飯田高校及び飯田風越高校は、進学校としてよりいっそうの充実を図ることが期待されている。理数科の成果が、他校も含め、普通科によい影響を与えることが期待される。

5. 結論の説明

(1) 全日制の再編整備に関する事項

第7、8、9区の全日制の配置状況、提出された中学卒業生数の変動状況の実態と予測により、各区の間に長期的に減少状況に大きな差が認められず、また、流出入については委員間でも主張にいささかの隔たりがあり、議論の結果、卒業生数の変動状況の実態及び予測だけでなく魅力ある高校づくりの観点も重視し、

各区で全日制1校を削減することとした。

第7区においては、他地域に比べ単独普通科高校が多く、特色を發揮しがたい状況にある。そこで1市町に既設校1校を維持することを前提として、第7区の普通科高校の設置状況を勘案し、隣接している岡谷東高校と岡谷南高校を統合し、両校の特徴を相乗した魅力ある高校にすることが妥当とした。

第8区においては、箕輪工業高校全日制的の募集を停止し、特色ある新たな高校として、多様な生徒に対応できる多部制・単位制高校を設置することが妥当である。

第9区においては、ものづくりを中心とした専門科高校の充実を狙いとして、飯田長姫高校と飯田工業高校の統合が妥当であるとの結論となった。しかし、ものづくりを中心とした専門科高校の統合であるので、特に校舎を含む諸施設の整備状況については、収容能力やその他の条件を配慮して決定する必要がある。

所謂地域高校は、最終報告書のいう適正規模とは、乖離するが、地理的条件に依る通学の困難度合い、地域高校との懇談等を通じて地域から強く求められている地域リ・ダ・の育成機能等に配慮し、所謂地域高校のなかで富士見高校、高遠高校、阿智高校、阿南高校の4校は、当面存続すべきであるとの結論に至った。今後は連携型中高一貫校の検討等により、魅力ある高校づくりを推進し、少子化の中での維持のあり方の検討を期待する。

(2) 総合学科高校に関する事項

総合学科高校の配置については、県内外の視察、懇談を通じ第3通学区に1校は設置すべきであるとの結論に至った。

総合学科は、生徒の多様性に合致し、生徒が将来の職業について幅広く、また時間をかけて検討できる機会となる優れた制度である。総合学科の利点は自由度が高く、学校を時代に合った形態に変えていくことが可能であり、地域の選択肢としての必要性は認められたが、具体的な配置校を決定するには至らなかった。

多くの学校では多様な生徒の選択肢に答えられるように、既にコース制等が導入されており、魅力づくりの延長線上で、今後総合学科への転換も考えられる。総合学科については第3通学区全体を通して今後の検討事項としたいという意向があり、地域での検討の成熟を待ちたいと考える。

その検討の中では、職業科の転換という面だけでなく、普通科の転換も含めた幅広い立場で検討され、さらに地理的条件を柔軟に考えながら通学区内の複数校設置の検討を期待するところである。

(3) 多部制・単位制高校に関する事項

多部制・単位制高校については、主として県外の多部制・単位制高校の視察懇

談を通じ、更には区内の定時制高校の実態を確認し、設置すべきであるとの結論に至った。設置位置は、生徒の通学に配慮し、箕輪工業高校の校地・校舎を活用して、独立した校舎を確保するとの結論に至った。

多部制・単位制高校では、午前部、午後部、夜間部設置の中で、時間帯の選択、単位制、体験的実地的学習を設けることにより、多様化した生徒にとって意欲的に学べる魅力ある学校として新たな可能性を持っている。また、三修原則、部を越えた履修を認めることにより、より高い目標を持った生徒を期待することができる。なお従来からある夜間定時制の機能を維持するために、きめ細かい指導とアットホーム的な状況を保障すべく少人数学習体制の強化を期待する。

さらに、社会人等を受け入れるという生涯学習に立脚した対応を期待している。

なお、上記で述べた体験的実地的学習や生涯学習対応の面から見ても地域の積極的な受け入れ態勢が不可欠である。

(4) 定時制高校に関する事項

定時制高校については、箕輪工業高校定時制と上伊那農業高校定時制を箕輪工業高校に設置される多部制・単位制高校に統合していく結論に至った。

また、飯田長姫高校の定時制と飯田工業高校の定時制についても、統合するとの結論に至った。その場合にも、将来的な課題としては、昼間部定時制、多部制・単位制高校の設置など生徒の実態に即した制度運用が望まれる。

一般に定時制高校では、昼間就業している生徒の割合が低下しているものの、不登校生徒の受け皿、居場所になっている中では、通学圏内に複数の定時制課程を設けることは困難である。将来的には、多部制・単位制高校への統合が望ましいが、少人数とはいえ定時制高校に通学希望する生徒はおり、教育の機会均等を保障する面から、第9区の統合された定時制と共に、諏訪実業高校定時制と赤穂高校定時制を当面存続させる必要がある。

6. その他の意見

委員会の結論としてまとめることが出来なかった意見を以下に述べる。

- ・ 飯田長姫高校と飯田工業高校の統合後の新たな学校は、飯田工業高校の校地・校舎を活用する。
- ・ 飯田長姫高校の土木科、建築科を飯田工業高校に統合し、商業科を下伊那農業高校に統合して、これを総合学科とする。
- ・ 下伊那の統合された定時制は、全日制統合校へ再編整備する。
- ・ 下伊那の統合された定時制は、下伊那農業高校へ移管する。

7. おわりに

上記の検討を通じ第3通学区推進委員各位には真剣な御討議を戴き、長野県教育委員会事務局高校教育課の皆様には委員会運営を支えていただき、一定の結論を得るに至りました。ここに各位の御協力に対し衷心より厚く御礼申し上げます。

長野県が、世界のリ-ダ-であろうとすれば、勝れた能力と意欲を持った多くの人材の育成が必要であります。それぞれの高校がより高い目標に向かい、努力戴くよう期待いたします。委員の言葉をお借り致しますと、すべての県立高校が生徒が入りたい魅力ある学校であり、社会が来て欲しいと願う前途有為な卒業生を送り出せる高校であって欲しいと存じます。尚少数では有りますが、集団に入りきれずに不登校となる生徒や中途退学する生徒等、将来に懸念がある生徒も増加傾向にあります。それらの解決のためにも、新たに設置される多部制・単位制高校が受容の役割を果たすことを期待いたします。また、移行期における生徒が、全日制、定時制にかかわらず、不安無く卒業できますことの配慮も合わせてお願いいたす次第であります。

「多くの時間を費やして慎重に」の御意見も拝聴致しました。今回はこの報告を申し上げますが、統合後に活用される校地・校舎について、積み残して県教育委員会に委ねることと致しました。また、高校教育は、なお多くの問題を抱えていることも認識致しております。高校時代は勉学の一過程でしかありません。願わくばこれを契機に、更に広く衆知を集め、充実した幼年期から高校に至るまでの教育につき、今後社会と教育界がさらにより議論の場を持って御検討戴ければ幸甚です。

第3通学区推進委員長 池上 昭雄

第3 通学区推進委員会委員名簿

【順不同 敬称略】

	氏 名	職 業 ・ 役 職 等	
自治体及び 地域関係者	小坂 樫男	伊那市長	
	岡庭 一雄	阿智村長	
	笠原 伸二	岡谷市教育委員	副委員長
	小林 辰興	辰野町教育長	
有識者	小口 武男	高島産業（株）代表取締役社長	
	池上 昭雄	K O A（株）常勤監査役	委員長
	北原 曜	信州大学農学部教授	
	熊谷 秀男	J A 南信州生活部長	
学校 関係者	保護者	川島 一慶	飯田東中学校保護者
		丸茂 貴子	諏訪二葉高等学校保護者
	校 長	小池 博	下諏訪中学校長
		関 哲夫	諏訪清陵高等学校長
	教 員	北原 秀樹	箕輪中学校教諭
		藤本 功	岡谷工業高等学校教諭

第3通学区推進委員会審議経過

回	期 日	場 所	主 な 審 議 項 目
第1回	平成17年5月29日(日)	長野県庁	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長の選出 ・資料(最終報告等)の説明及び質疑応答 ・高校改革に関する意見交換
第2回	平成17年6月27日(月)	伊那市生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・県立高校再編整備候補案について ・委員会の検討の進め方について ・魅力ある高校づくりについて
第3回	平成17年7月12日(火)	諏訪合同庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある高校づくりについて ・県立高校再編整備候補案について ・部会設置について
第4回	平成17年7月20日(水)	飯田高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・部会設置について ・飯田、松川、飯田工業の視察
第5回	平成17年8月18日(木)	伊那市生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高校について ・部会設置について ・第7区の再編整備について
第6回	平成17年8月29日(月)	伊那市生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・候補案の解説の説明及び質疑応答 ・魅力ある高校づくりについて(多部制・単位制、総合学科、専門学科)について
第7回	平成17年9月9日(金)	伊那市生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・第7区の再編整備について ・専門学科の配置について
第8回	平成17年9月22日(木)	諏訪実業高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・多部制・単位制について ・諏訪実業、岡谷工業の視察
第9回	平成17年10月11日(火)	伊那市生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・多部制・単位制高校設置について ・総合学科高校について
第10回	平成17年10月24日(金)	伊那勤労者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・第7区の再編整備について ・地域高校について
第11回	平成17年11月23日(水)	伊那市生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ・各区からの検討状況について報告
第12回	平成17年12月4日(日)	南箕輪村民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・第9区から検討結果の報告 ・定時制について
第13回	平成17年12月26日(月)	伊那商工会館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの意見発表 ・第7区、8区、9区の再編整備について
第14回	平成18年1月12日(木)	南箕輪村民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・第7区、8区、9区の再編整備について
第15回	平成18年1月18日(水)	南箕輪村民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・第7区の再編整備について ・報告書について
第16回	平成18年1月30日(月)	南箕輪村民センター	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書について